

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 26日は、低気圧が東日本の南東海上へ進む。
- 27日は、前線が日本の南から東シナ海へのび、前線上を低気圧が東進する。
- 28日は、低気圧が日本の東に進み、気圧の尾根が東シナ海にのびる。
- 3月1日から2日は、低気圧が日本のはるか東に留まり、気圧の尾根が本州付近にのびる。

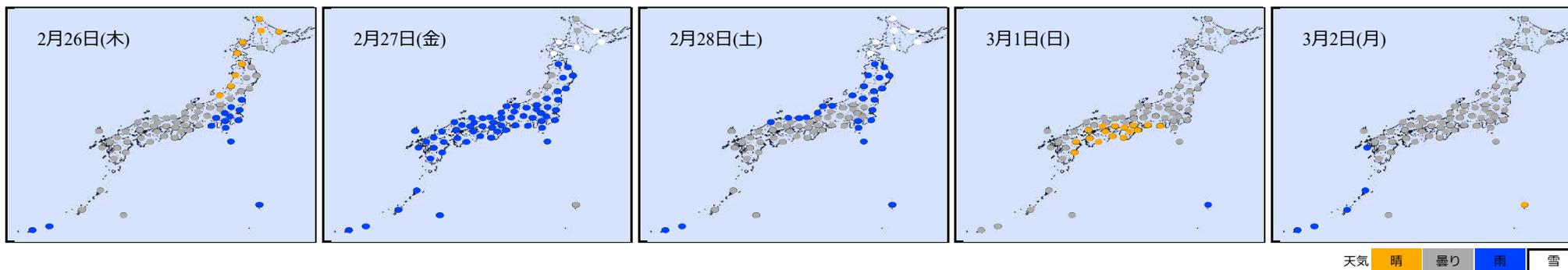
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

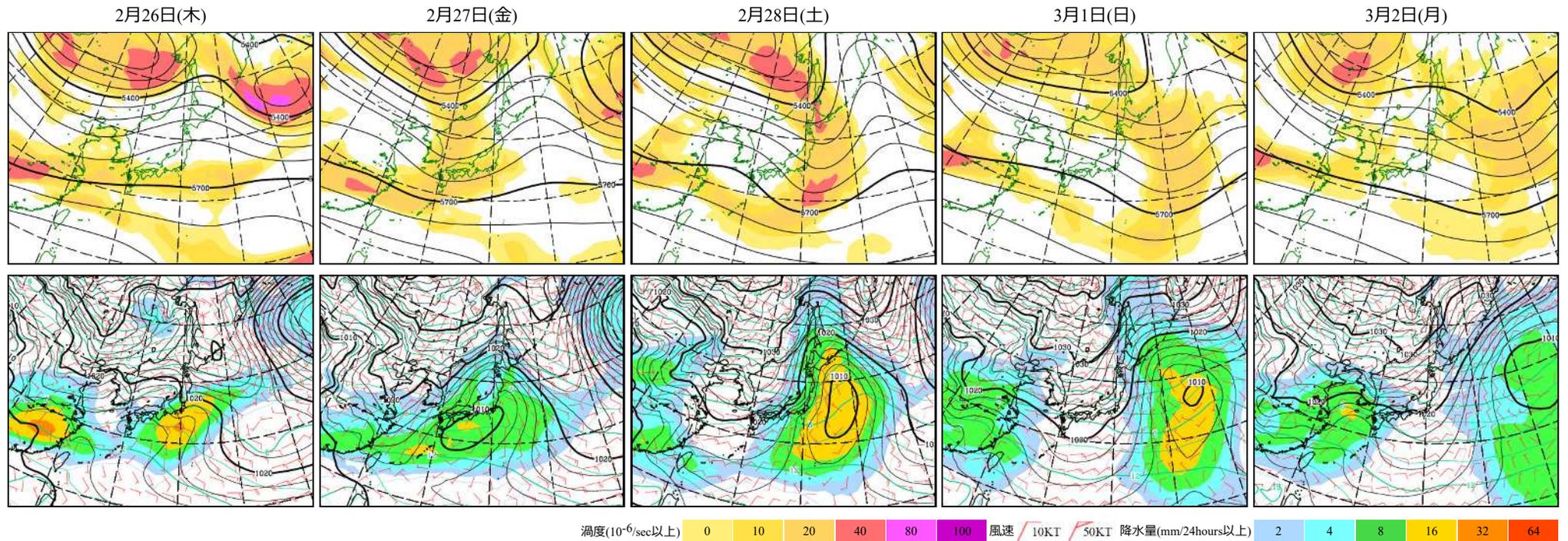
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

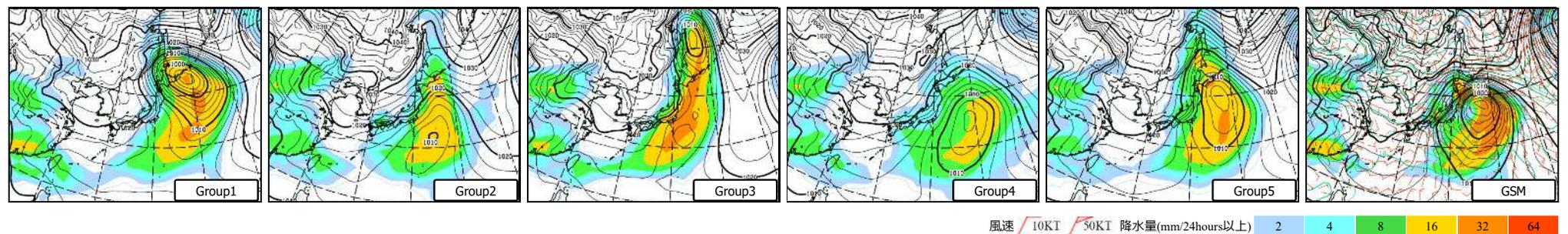


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、26日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、3月1日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月28日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日から3月1日にかけて、日本海から北日本を通過して日本の東に進むトラフが深くなり、東進が早くなった。これに対応して、日本の南から日本の東に進む低気圧が強くなり、東に寄った。
- 降水確率ガイダンスの値は、27日は北日本から東日本にかけて高くなった。28日は西日本で低くなり、北日本で高くなった。1日は西日本で低くなった。
- スプレッドは期間後半には大きく、特定高度線のばらつきも大きい。
- 各モデル、27日に日本の南で発生した低気圧が発達しながら日本の東に進む予想は揃っているが、期間終わりの低気圧の位置やその後面の気圧の尾根の位置にはモデル間の差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。